

みどりの杜俳句会

木立抜け涼風の来る山の家

佐山けさ子

色の良き秋茄子焼きて味旨し

梅沢きくえ

早朝の裏山雑木蟬の鳴く

西 つる

皮堅き初採りトマト朝の膳

田村 好子

畑胡瓜真つ直ぐ下がり刺尖る

鈴木 啓子

道端に殻脱ぎ蟬の声高し

高橋 ツ子

夏祭りちようちん下がり胸の鳴る

木本 弘子

治療食好物トマト食べられず

今村千鶴子

みんなに目覚め一気につき上がる

吉田 愛子

山よりの涼風頬に来て嬉し

山崎 才子

足もとの蟬俄か飛び朝の畑

野口利江子

どくだみの畑の隅より中へ増え

飯野はつ志

百日紅雨に打たれて色の褪す

小宮 勉

帰り道子ら虫籠をのぞきては

神田 昌美

鹿除けの青き網張り山の畑

関口 侑子

栗飯の栗つまみつつ晩酌す

岩崎 真人

長雨に蓄のままの木槿かな

岡部富美子

道の端草に紛れて韭の咲く

土屋 厚子

柚子坊に喰はれ蜜柑の一葉なし

初雁 功子

水口の整へてあり蝗飛ぶ

山田 美子

白石短歌会

ウイルスの名などつけられ太陽も

怒りもするさ雨降り止まず

処方箋に増して柔和なる

掛り付け医の笑顔に癒ゆる

夕暮れの峡の山里雷轟き

パラリンピックの実況続く

夕暮れの峡の山里雷轟き



人権シリーズ

『障害のある人の
アートと心のバリアフリー』

障害のある人のアート作品が、国内外で注目を集めています。かつては「障害を乗り越えて頑張った」という評価が先行しがちでした。現在では作品そのものの素晴らしさにもスポットライトが当てられています。これまでの常識を覆すような驚くべき作品、鮮やかな作品、特定の文字を反復・集積させた作品など表現は多種多様。障害者アートやアール・ブリュットと呼ばれたり、障害の有無で分類することなく現代アートとして紹介されたりしています。

このような魅力的な作品に出会うと、何を表現しているのか、どのように描いたのか、作者はどんな人なのかなど思わず深掘りしたくなります。思いを巡らせていると、人の心を動かす作品は、多様であり、障害の有無ではなく、その人だからこそ創り出せたということに気づかされます。

個性や多様性に価値を見出すアートは、新たな価値を社会に生み出すとともに、人と人の相互理解を深める力があると言われていきます。SDGs、共生社会など多様性を大切にする現代社会。障害のある人のアート作品は、多様であることを認め合う豊かな心、「心のバリアフリー」を実現させていく可能性にあふれているのではないのでしょうか。

埼玉県では、障害のある人のアート作品の魅力を、展覧会やイベントなどに加えて、オンライン美術館でも紹介しています。作品解説も付いているので、一人一人の個性にも注目しながら作品を楽しめます。

東秩父村副村長 清水 順平



埼玉県障害者アート
オンライン美術館